The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	彙報
Author(s)	
Citation	懐徳. 1966, 37, p. 199-200
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90442
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

彙　報

（懷德堂記念會）

○秋季講座　昭和四十年十月十一日（月）より十六日（土）まで、本會及び阪大文學部主催、朝日新聞社後援で、阪大本部松下會館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、懷德堂講座第三十回開講、聽講者延三百六十名。

演題と講師

一遍と日蓮　阪大助教授　黑田　俊雄先生
グリフイスと明治日本　同　梅溪　昇先生
紫式部　大阪女大教授　玉上　琢彌先生
古代エジプトの宗教と美術　關大教授　加藤　一朗先生
エジプトとヨーロッパ　阪大教授　名譽　村田數之亮先生
五代友厚　阪大教授　宮本　又次先生

○記念祭典　昭和四十年十月十六日（土）北濱本會（適塾内）に於て、午後一時より記念祭典執行。同一時三十分より記念講演會を開き、阪大教授相原信作先生の「漢學漢字の將來」と題する講演があった。

○昭和四十年十一月三日理事赤堀四郎氏（阪大總長）文化功勞者として、文化勳章授章。

○評議員川田順氏（歌人）昭和四十一年一月二十二日全身性動脈硬化症のため、藤澤市の自宅に於て逝去、謹んで哀悼の意を表する。

○昭和四十一年三月三十一日理事時野谷勝氏退任。

○同年四月一日守屋美都雄氏（阪大教授（文學部長））理事就任。

○春季講座　同年五月二十三日（月）より二十八日（土）まで本會及び阪大文學部主催、朝日新聞社後援で、阪大本部松下會館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、懷德堂講座第三十一回開講、聽講者延三百五十名。

演題と講師

漢書藝文志　阪大教授　木村　英一先生
江戸時代の篆刻　京都美大教授　中田勇次郎先生
韓非子　羽衣學園教授　大久保莊太郎先生
白氏文集　京都府大教授　花房　英樹先生
貝原益軒の養生訓　阪大教授　丸山　博先生
日本に於ける漢字　阪大教授　池上　禎造先生

○顧問武内義雄先生（文學博士、東北大名譽教授、學士院會員、文化功勞者）昭和四十一年六月三日老衰のため、四日市市小古曾町の自宅に於て逝去。

先生は大正八年三月より同十二年三月まで、講師の任に就か

れ、越えて昭和二十三年顧問に就任、二十四年の長きに亘って本會のため力を盡された。まことに哀悼に堪えない、謹んで弔意を表す。

○昭和四十一年七月一日時野谷勝氏事業運營委員就任。

○理事兼事業運營委員、守屋美都雄氏（阪大文學部長、文學博士）昭和四十一年七月十日腦溢血のため、豐中市五月ケ丘の自宅に於て逝去。謹んで哀悼の意を表す。

○昭和四十一年八月一日澤瀉久敬氏（阪大文學部長、醫學博士）理事就任。

○追記昭和四十一年三月一日左記二氏評議員就任。

堀田庄三、松下幸之助

豫　定

昭和四十一年十月十五日（土）午前十一時より阪大本部松下會館四階に於て、恒祭並に重建懷德堂開講五十周年記念式典を執行、午前十一時半より記念講演會を開く。

十七日（月）より二十二日（土）まで、毎日午後六時半より八時まで、同所に於て懷德堂講座を開催する。

（堂友會記事）

十月十三日　懷德堂記念會恒祭參列奉仕后委員會開催

十一月十四日　王仁傳土墳及　酬恩庵見學、齊藤孝先生指導にて參加者三十餘名、尙當日山田駒吉氏に格別の歡待を受く。厚く御禮申し上げます。

一月二十二・二十三日　委員會を白濱十合にて開く、二十二日田邊高山寺に芦雪繪を見、翌日富田の草堂寺祕藏の芦雪繪を見學した。

二月十三日　阪倉先生を訪問、懷德堂の御感想を拜聽。

四月三日　高齡者座談會を圓珠庵に開き、會員の古き思い出をきく。

五月三日　源先生を訪問、懷德堂御出講時の御感想など拜聽。

五月廿九日　播州鶴寺の古建築及び美術見學。齊藤孝先生御指導による。雨天にも拘らず參加者三十數名。

六月五日　懷德堂記念會顧問武内先生御葬式に委員有志參列。

九月二十二日　九時五十一分天王寺發で南紀串本に向った。當日は森暢先生の御指導で南紀の長澤芦雪の繪を觀賞するためであった。先ず成就寺、橋抗石、を見て海月堂にて一泊、翌日無量寺の繪畫及び森氏蒐集珍奇な品など觀賞、潮岬を觀光して歸阪した。